

『新映画』 電子書籍 復刻版 ページ見本

の畫映
學科識常

新映画



峰藝文・勇杉小・子邦宅三・品作部道報軍鮮朝《僕と君》

新映畫

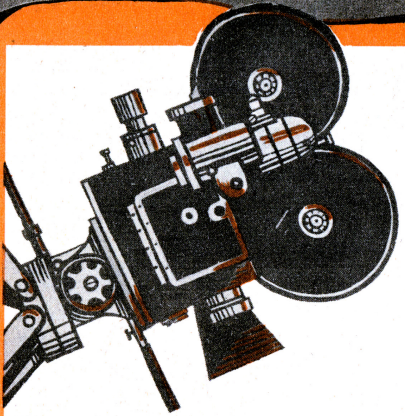
十月一號
特映
編輯
學科雜誌

表紙《君と僕》 文杉 磯 峰 勇 三宅 邦子 西田俊造撮影
色の本質 田中敏男
《僕の國》北京ロケ 上原 謙
西班牙の夜 野口久光
《川中島撮影談》 三浦光雄
達藤健吉氏のことども 吉村公三郎
映画撮影機の構造と種類、撮影のいろいろ、録音と
編輯・現像焼付・配光

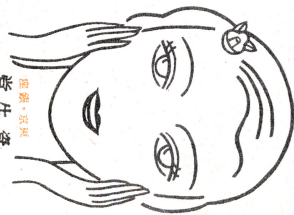
目次

光と映画 長濱 慶 三(三五)
映画フィルムはどうして出来る 長野 守 宏(四〇)
映画フィルムの性状 長野 守 宏(四五)
映画フィルムと映画技術 島崎 清 彦(五〇)
撮影機の機構と構造と 操作法との鳥瞰概説
映画撮影用レンズ 映画に使用されるフィルムター 小倉 金 彌(六〇)
野川 村口 敏 男(五六)
田中 敏 男(五四)

フィタールの原理 島崎 清 彦(六〇)
照明の色々 角田 義 幸(六六)
構圖に就いて 田中 敏 男(七〇)
撮影の画調並に配光 生方 敏 夫(七三)
移動撮影について 玉井 正 夫(七八)
特殊撮影 岩淵 喜 一(七八)
特殊技術 圓谷 英 二(八三)
如何にして録音されるか 田口 柳 三 郎(八六)
録音の實際 東條 絹 兒 郎(八九)
現像・焼付 西川 悦 二(九二)
香取 次 郎(九三)
映画と編輯 濱村 義 康(九六)
吉村公三郎(九九)
映画に關する知識の全 貌 歸山 教 正(一〇二)



リカルド
弱に戟刺の鹼石
ルア級高の種数いし著の果効肌美
浄清の上以鹼石粧化・合肥ルコ
へ補をカ肌整の様同ムーリクとカ
すてムーリク顔洗の能性新た



ムーリク シアルト 堂生質
●●●にリ刺賢おの方眼●に顔洗お●料顔洗新たね兼をチーサーリア
●●●にリ刺賢おの方眼●に顔洗お●料顔洗新たね兼をチーサーリア

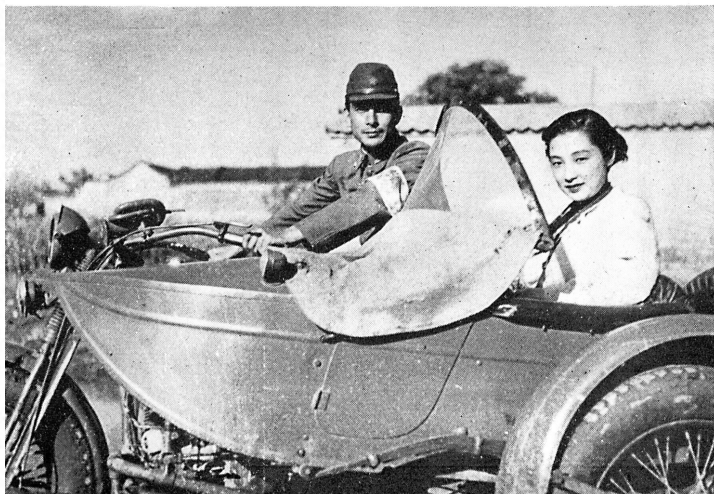


手を健やかに
●唯のクリームを、ベ
タベタ塗りつけて
も、決して手の健康
は保てません。
●冬、手の荒れ、シモ
ヤケ、アカギレで悩
む方は、本品を朝
夕二回、丁寧に
すり込んで御覧な
さい。
●本品獨特の基劑ヒ
タミソンの作用によ
つて、最早に手を健
やかに美しく保たせま
す。

トシメタスヒ

五〇錢
一圓
生質堂
株式會社

●●●にリ刺賢おの方眼●に顔洗お●料顔洗新たね兼をチーサーリア



國の櫻女

シヨシイケロ京北

した。現代の併し之等は總て數百
 日本を感じないの街は、そし
 秋こそ世界は、で私だて百
 ける。年見初、いばに立ふし所、も述しに津海、のら北たの
 の前の、め然氣かを派氣ての黃知べると、る世一京ひ言北
 行建鄭い美此のつ外がなは支見いな事那河が京が一月居かはの
 であく物北水しこのの國あなは來た埃が：資のの見口な遠たはだのれ京は
 う人々と見立北京。租ればなは私に還：格事輪で、かにた八事居一
 か？ので一時。なへ。實にの殘かいに還：はや廊み武つおの月か
 左程の感石物つ、腹るなたと、は、な感けい、昌た目で半の間！
 上原謙の心支をてし街事の六決たかをに秋天上か此かが機此



「君と僕」の キャスティング

朝鮮軍報道部製作の「君と僕」は内鮮融和の美しい精神を強調した意圖をもつたものであるが、製作スタッフもまた内地から有力な映畫人の参加を見て朝鮮映畫製作史にひとつのエポック・メエキングな足跡をのこすものと言つていい。即ち、監督日蓮英太郎を補導する巨匠田坂具隆を始め、文藝峰、永田絃次郎、金素英など半島のスタッフに併し内地から、小杉勇、大日方傳、三宅邦子、朝霧鏡子などが出演してゐる豪華キャストである。

文藝峰——ふるく「旅路」あたりから我が國にもよく知られてゐる朝鮮映畫界のスターである。半島映畫史黎明期からの苦勞を生きぬいてきた人の一人である。最近東和商事に入荷した「家なき天使」にも出演してゐる。この映畫では志願兵木下太郎の妻を演ずる。

永田絃次郎——時事新報のコンクールに入選し、三浦環の「お蝶夫人」にピンカートンを演じた。すでに本邦の第一線に立つテナア。特に懸望されてこの映畫の主役金子英助を演じてゐる。

沈影——朝鮮劇團の中堅俳優で、映畫にはすでに「福地萬里」にも出てゐる。この映畫に於ては木下太郎といふ志願兵役で、金子英助とは非常に親しくしてゐる。

金素英——半島に於ける新進女優で、淺野美津江の友李白姫に扮する。

小杉勇——「愛の懸案」を最後に日活を出て興亜映畫入りをしてからの最初の出演映畫で興亜の「忠臣蔵」と平行して仕事を立てゐる。この映畫では金子英助に鷹目してゐる扶餘博物館長、久保良平役を受持つてゐる。

三宅邦子——現役の邦畫女優の最前線にある三宅邦子が小杉勇とはじめて顔を合せたのが朝鮮映畫だつたといふのも面白いことである。文藝峰と共演してゐることも多いに興味がある。久保良平の妻房子を演ずる。

河津清三郎——第一協園からこの映畫に参加し、久保房子の弟淺野謙三に扮する。

朝霧鏡子——謙三の妹で久保家に寄偶してゐる美津枝に扮する。金子英助の妻として内鮮結婚に結ばれる人である。

以上の主要キャストに加へて、特別出演として大日方傳、李香蘭が参加してゐることはこの映畫の彩りをいよいよ濃くしてゐる譯である。

寫眞、上は三宅邦子と文藝峰。
左頁、上は金子英助の出征の祝の場面のスタッフで奥の方の三人が左から永田、小杉、三宅。右手に金素英、朝霧鏡子がゐる。下左は森山教育に扮する大日方傳、右は小杉勇、金永斗（志願兵、清水に扮）永田絃次郎。



遠藤慎吾

氏のことども

吉村公三郎

強いて遠方より来たるを得たすとも、いつも極く手近かな處に、多くのいゝ友達を持つてゐることは、私の数少ない幸せの一つである。常に大言壯語、悲憤慷慨の正義派ではあるが、又一方惡口雜言、人を怒らせることに無上の快楽を覺えるといふ因果な性格の持主の、批評家のHを始め、辯舌は流れる如く、専ら人を怒くためにのみ學問をして来たやうなインテリ宣傳課長のT氏、日常腹を立ててゐないといふ氣が清まぬ、監督のS、世紀末的な愛國者を以て任ずるK、甚だ愉快な人物の多いなかに、遠藤慎吾氏は、どちらかと云

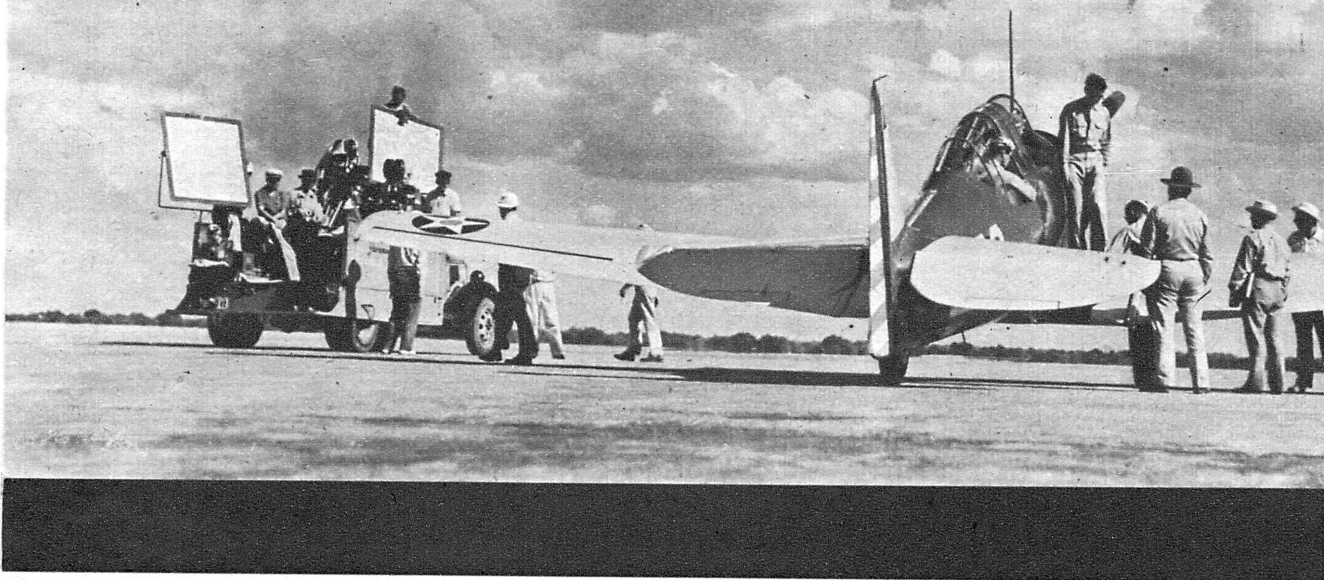
ふと最も紳士的な人である。もつとも或る偶然の機會、識り合つてから比較的日も浅いので、凡俗の私にはまだ彼の馬脚に氣がつかぬのかも知れない。以後どんな馬脚を現してくれるか、これまた私の楽しみの一つである。遠藤氏が本政翼賛會の文化部に居るために、彼が映画に俳優として出演することが新聞なんかにもトピックのやうに扱はれ、私達の仲間以外の人達の間では何か意外に思はれたり、或一部では眉をひそめられたりしたと聞くと、これは本當に遠藤氏その人を識らないか、或いは眞實會そのものに理解がないか、もつといけなない場合は、全く映画に對する輕蔑感からであらうと思はれる。遠藤氏は知る人は知つてゐるやうに、嘗て俳優として充分の教養を受けて来た人なのであつて、彼氏が演劇界や映画界の實際的な活動から比較的遠いところにいるのは、劇界や映画界そのものに「人」をみる眼がなかつたからで、遠藤氏自身も決して嫌ながら仕事をやつたのでは勿論なく、喜んで、自分から「好きで進んだ道である」とは想像されるのである。私も、演出の仕事の本當にやり始めてからは經驗も乏しいが、少年の頃から映画界の御飯を食へ、骨の髄までフィルム臭くなつてゐるやうに思つてゐる位故、大體の勘で、この人が俳優としての資格を備へてゐるかどうかは一日もつき合つて話をしなれば、解るやうな氣がするのだが、遠藤氏に最初會つたとき勿論半分冗談にだが、映画で仕事をしてみないかとすゝめたことがある。同席してゐた先に云つた宣傳課長のT氏もすぐそれに賛成して、頻りにすゝめて居た。この時に豊田さんは居なかつたやうだが、豊田さんが今度は眞面目に遠藤氏にすゝめてゐると聞いたのはそれから一ヶ月もたない頃であつた。遠藤氏がこれ喜んで引受けることが解つてゐたので、私自身本當のところ一寸豊田さんに出し抜かれたやうな氣がして、豊田さんにも笑つて話をしたのだが、尤も私の仕事をしなめる會社と、豊田さんのそれとは相當違つた雰囲気を持つてゐるの、たとへば遠藤氏に来て貰へることが出来たとしても、果して充分そ

の才能や技術を生かし得るか、或は感情的にも愉快に仕事をやつて行けるかどうかには少なからぬ不安があり多少熱心に彼を引張れない氣持もあつたので、豊田さんの方で遠藤氏を必要とするならば、遂かに有意義なことと思ひ、そのことの實現するのを願つてゐたわけである。唯、多少面倒に思はれるのは彼が大政翼賛會の部員であること、こうした世界の人々が映画の仕事をするまゝの地位でやることに何か障害があるのではないかと云ふことであつたが、幸ひにして部長に岸田先生を持つたことは大きく云へば映画界のために幸せだつたのである。しかも豊田さんの今度の「わが愛の記」はすでに識られてゐる如く、立派な國策映画で、小島の手にかゝつて豊田さんが、この時代に送る絶望的な作品なのであるから、常識で考へたら何人の障害もないわけ、軍事保健院からの話もあり、可成りすらすらと實現したわけである。ジナリズムが、美談扱ひにしちしたものは、むしろ奇怪なことであつて、自分の才能を生かし得て更にそれが幾分でも國の爲になるならば、これに喜んで携へるのは、吾々當然の義務なのであるから、特に取り立てて申し程のことではないのである。翼賛會はお役所ではないのであるから、部員がその仕事の時間を他のことにさいたとして、それが國家的に意義のあることなら構はないと思ふのであるが、今もなほ殘存する舊い意識をもつてゐる一部の人間が、「映画の役者などに……」と表だつて口には出さぬが、蔭で云ひ合つてゐるといふ話を聞いたが、先にも申したやうに、こうした無理解はまだ相當の力を持つてゐる、悲しむべき事實である。しかし遠藤氏自身にとつて、このせなかまじい世評などは氣にする程のことではなかつたのは、彼がその演技藝術の教養の大部分をドイツで受けたことが原因してゐる。演劇藝術の眞實に對する、それはドイツこの國の本質的な意識の相違である。間もなく、遠藤氏が既に仕事を始めてゐる噂を聞き、主役に扮した氏が椅子車に乗つた寫眞が、雑誌なんかに掲載されるやうになつ

空の要塞

I WANTED WINGS

映 画 ト ン ウ マ ラ パ
品 作 セ イ ラ ル エ チ ッ ミ



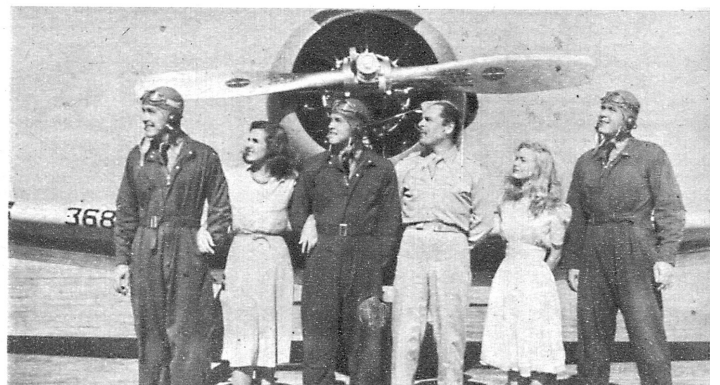
映画と云ふものが、單なる娯樂物の域を脱し、一國の政策遂行上に重要な一分野を占めるに至つて居る事は、今更云ふ迄もない。この映画は一朝有事の際に有効な防空活動をするためには、國民全般の航空知識を培つて置く必要ありとの建前から、米國がその國民の空への關心、航空知識の普及と、更に空軍集の効果を云々、一石二鳥を狙つた、紛ふ方ない大軍機宣傳・米國の國策映画である。

この映画の強味は、米國陸軍航空本部の絶對支援のもとに行はれた、テキサス州の「空のウェスト・ポイント」ランドルフ飛行場、ケリー飛行場及び加州のマーチ飛行場に於ける豊富なロケーションや、「空の要塞」たるボーイングB-17を初め、各種の練習機、戦闘機をふくむ六百餘機の出動機数にうかゞはれる。技術的指導には原作者ベールン・レイ中尉とランドルフ陸軍航空兵學校のウィリアム・ナツカール中尉が當り、編隊飛行の指揮をフレッド・グレイ中尉、高等飛行は米國一の曲線飛行家ポール・マンツが引受け、この至難な空中撮影は斯界の大家エルマー・ダイヤが愛用のロッキード機を駆使してフィルムに治めた(彼の愛機には現像設備がそなへられて居り、フィルムは直ちに現像、テスト・プリントが製作されるのである)。空中撮影には監督ミツテュル・ライゼンが移動出来る高い塔の上からラジオで指揮したと云ふから總て大掛りな點何如にも米國式である。

物語りはレイ中尉の小説「我れ翼を欲す」より、エリナー・グリフィン、フランク・ウイードの二人がアレンジし、それをレイ中尉、リチャード・メイバーム、シグ・ヘルジの三人が脚色した。大空に志を抱く若人の憧れ、ランドルフに於ける候補生の訓練所生活を中心に、友情とロマンスをからませたものであるが、その骨子となるランドルフ航空兵學校とは即ち米國軍將士の培養の地で一九〇〇エーカーの廣大な飛行場、B-17九、十三、十四等一千數百機に及ぶ練習機を有して居る。此處では昨年まで毎學期二千二百名の志願者が入學を許され、幾同かの試験をパス

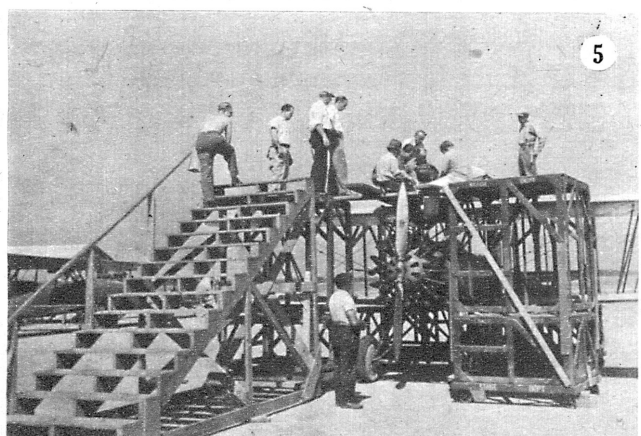
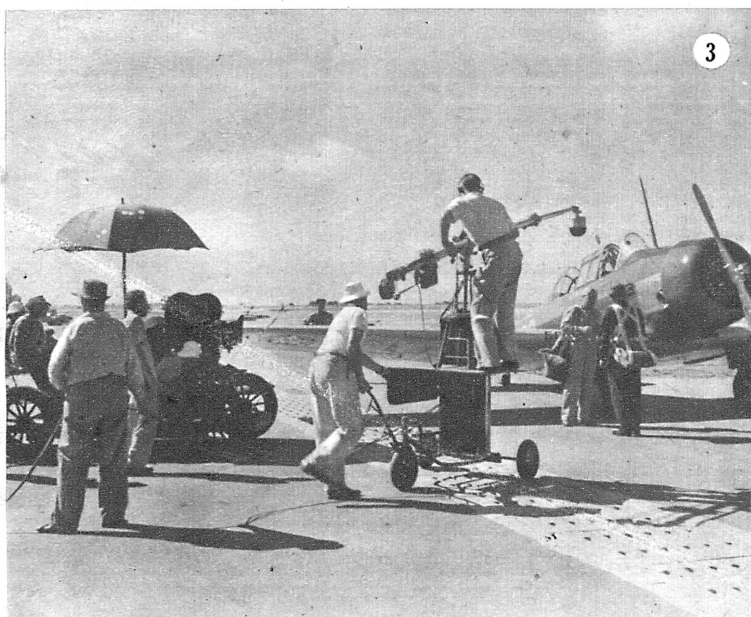
した六百名が候補生としてケリー訓練所に進級、更にその中の優秀者のみが「空の要塞」操縦資格者としてマーチ飛行場で實地訓練を受けるべく派遣されるのである。この様に、米國空軍の心臓部とも云ふべきランドルフの養成施設の概況を明瞭な描寫、また飛行中のボーイングB-17の詳細な内部紹介等の點で、米國空軍の組織の一端をうかがふ上にも、航空機の性能を察知する上にも絶好の參考資料、最新版の「航空叢書」として注目し値ひしう。然し如何に國策的な航空映画とは云へ、そこは米國一流のくだけた華やかさが添へられて居ることは勿論である。以下荒筋をいづまんとするべし……

ロス・アンヂエス一帯の上空で行はれた大規模な防空演習の壯烈な大空戦が終了した時、砂漠に不時着大破した操縦機があり、若い女の屍體までも発見された。この事件を裁く軍法會議の席上、操縦者の中尉は潔く總ての責任を負はうとし、機關士は彼の無實



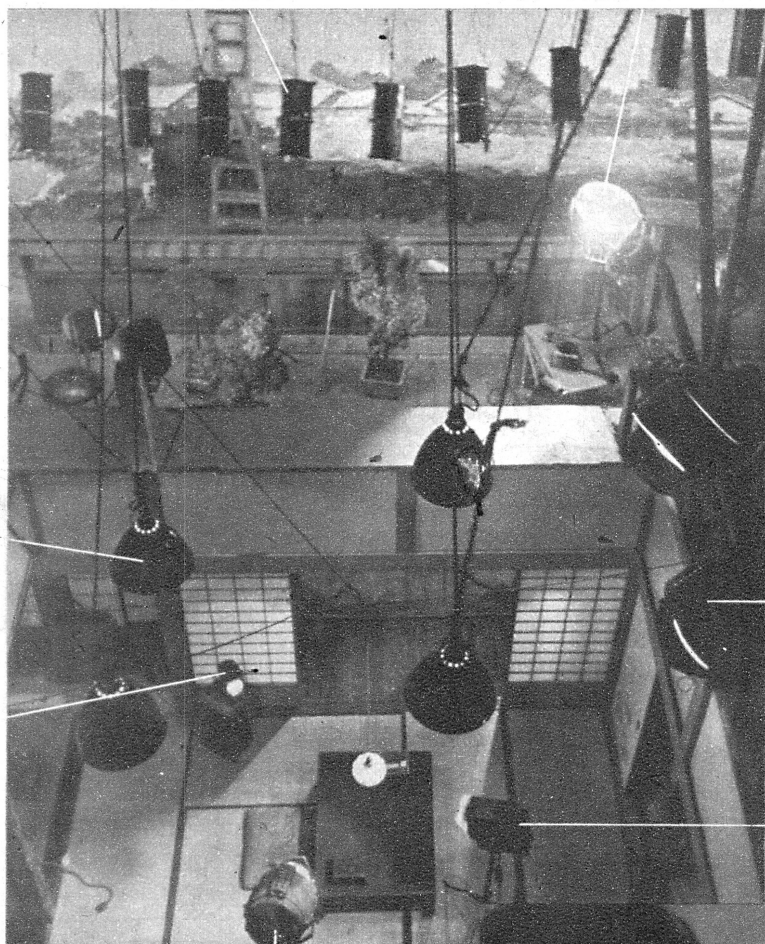
撮影さまざま

①「スミス都へ行く」中のセツト上院撮影でカメラ三
 臺を据えてゐる。向つて右レール上にあるものは前
 進後退（トラック・アップ或はバック）以外に更にク
 レーン上で左右に展開し、中央のものはマツト（廻轉
 臺）につてゐる。左のものはレールなしのトラック
 カメラは天然色カメラ（翼の人々）
 につて移動する。脚立の上がフランク・キャブラ。
 向二階傍聴席の對抗面及び右に各一臺づつクレーンに
 のつたものがおいてある。②ロケーション撮影（レン
 ジャーをあてゐるのはミッチェル・ライセン）③飛
 行場の移動撮影（共に「空の要塞」④鐵道撮影。カメ
 ラはサイレント二臺。⑤は飛行機上からの大寫撮影。



トイラ・プツリトス

トイラ・トツボス・ンザ・ロギ五



トイラ・ドイサ

配光の 實際

或る日の「何處へ」のセットより
寫眞を、まだ俳優のはいらないセット、用意
されたライトの位置に御注意下さい。
下、バースト撮影の場合で、左圖のライトの位
置とこの圖のライトの位置と明るさを比較さ
れたし。
左下以上のライティングを使用した際のス
タイル寫眞です。
人物は小暮實千代。詳細は本文生方敏夫氏の
「撮影の畫調並に配光」を御覧下さい。

三キロ・サン・スポット・ライト

スポット・ライト

ペビー・スポット・ライト



「夜のタンゴ」などの本を書いた老練な
フイリツ・ロタル・マイリンクとフレッ
ド・アンドレアス、監督は「ワルツの季節」
とか「学生生活」など音楽映畫を作つたヘル
バート・マイシュである。マイシュはその後
は「DⅧ八號」などといふ飛行機を扱つた
軍事物を撮つてゲエリグ空相から感状を貰

つたりして音楽物から轉向してゐる感がある
が、元を紐せば、カール・リツターの後輩で
大戦中の飛行機校だつたといふ經歷の持主、
どうやら戦手の方が本職らしい。が、しか
し、音楽方面の經歷もない譯ではない。
この映畫にアルヘンティナを持つて来た
ことは申し分ないのだが、改作してゐるこ
音楽がビゼエのものでないことは、いささか喰
ひ足りないところである。しかし、何はさて
置き大きな收穫は、典型的な西班牙美人であ
るイムベリオ・アルヘンティナがカルメン
を演じること、彼女の肉體に流れる血が歌ふ



夜 介 野口久光

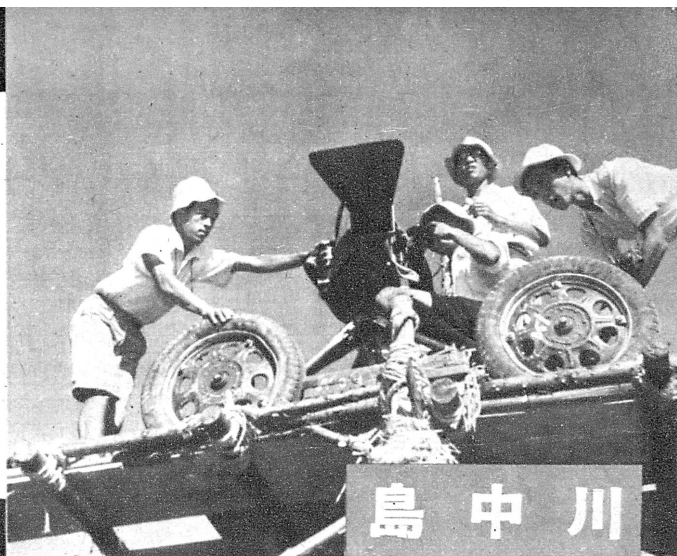
といつてもよい生粋の「カンテ・フラメンコ」
の持主、これはトッキー始まつて以來の一つ
の收穫である。「夕暮れの歌」といふ英國映
畫にコンチタ・スベルヴィアが出てゐるが、
あれ以來の本場の西班牙歌手の歌が聴けるの
である。
彼女の歌ふ曲名を挙げると、最初牢獄に入
つてゐる闘牛士のアントニオに會ひに来たカ
ルメンが歌ふ生粋の民謡調の「サンタ・マリ
アの港」(Puerto de Santa Maria)である。
一體「カンテ・フラメンコ」のあの不思議な
旋律、抑揚、唱法は、われわれ日本人の血に
訴へるものがある。ピンと来るものがあるの

だ。民謡はこの一曲だけであるが、新曲の作
曲には、二人の西班牙の作曲家を起用してゐ
る。この點は全くぬかりない。次に歌ふのは
酒場の舞臺でカルメンが歌ひ踊る「炭焼きの
唄」(Las Plomeras)といふフラメンコ調の
陽氣な曲(ファン・モスタツ・アラレスの作
曲)である。これは獨逸調の歌詞が入つてゐ
る。次は、ホセとのラダ・シーテ「トリア
ナ、トリアナ」(Triana, Triana)といふ題の
情熱的な戀歌を歌ふ。この曲はモスタツ・ム
ラレスと、も一人のホセ・ムンノス・モレ
ダの協作である。最後は矢張り酒場でカルメ
ンが歌ふアントニオを讃える「アントニオ・
バルガス・エレディア」(Antonio Vargas
Heredia)である。ラストに近く、バルガス
・エレディアの死をいたむ悲痛な歌がある。
「エレディアの死」(La Muerte de Vargas
Heredia)がそれである。以上の四曲はポリ
ドールのさきのアルバムに全部入つてゐるし
近く單獨でも發賣されるさうである。兎に角
スペインの歌謡曲には東洋人であるわれわれ
の民謡と一脈通じるところあり、心に迫つて
くるものがある。アルヘンティナの唄はどの
曲も全く素晴らしい。

紙数が盡きたので、甚だ粗雑な紹介になつ
てしまつたが、「西班牙の夜」はイムベリオ
・アルヘンティナの歌ゆゑに見るべき音楽
映畫であり、「カンテ・フラメンコ」の魅力
を満喫することの出来る珍しい映畫である。
尚ド・ホセには嘗てフランツ・イスカ・ガ
イルのどの映畫だつたかに相手役をやつたフリ
ードリッヒ・ベンファアが扮してゐる。プロ
ファイルがわれらがテナー藤原義江にそっくり
なのはスチールを御覽の通りである。闘牛士
のアントニオには野性的なカール・クリュス
ナー、この他古顔のハンス・アダルベルト、
フォン・シユレットウや、舞臺の名女優マリ
ア・コペンハーファーなどが出演してゐる。



歴史劇、川中島合戦を貫く根柢の意圖は世界に誇る日本民族の不撓不屈の精神を高揚した然るに、冒して實は生々しい現代の、戦ふ兵隊の旺盛果敢な戦闘精神を裏附けたものであると、斯う私は解釋した。劇の描く川中島合戦に至るまでの運びは殆ど中樞を頼頭貞孫九郎及びその部下、小者達の大荷駄小荷駄を護送する輜重隊の難突破の苦闘の姿を中心に描かれてゐる。即ち大陸に戦ふ第一線部隊の背後に在つて、總ゆる辛酸を祇め任務遂行に當つてゐる輪卒の烈々たる闘魂を、永祿年間へ遡る時代にうつし、以つて古今變りない我が國傳統の逞しい民族精神を奥底に、力強く描かんとする意圖の作品である事が、作者横田博、衣笠貞之助兩氏の言を俟つまでもなく脚本を手にしたものが等しく頷く處のものである。永祿四年夏八月、雄大な山河を背景に軍馬數百頭、甲冑に身を固めた武將と雜兵數萬、妻女山と茶臼山に相對峙



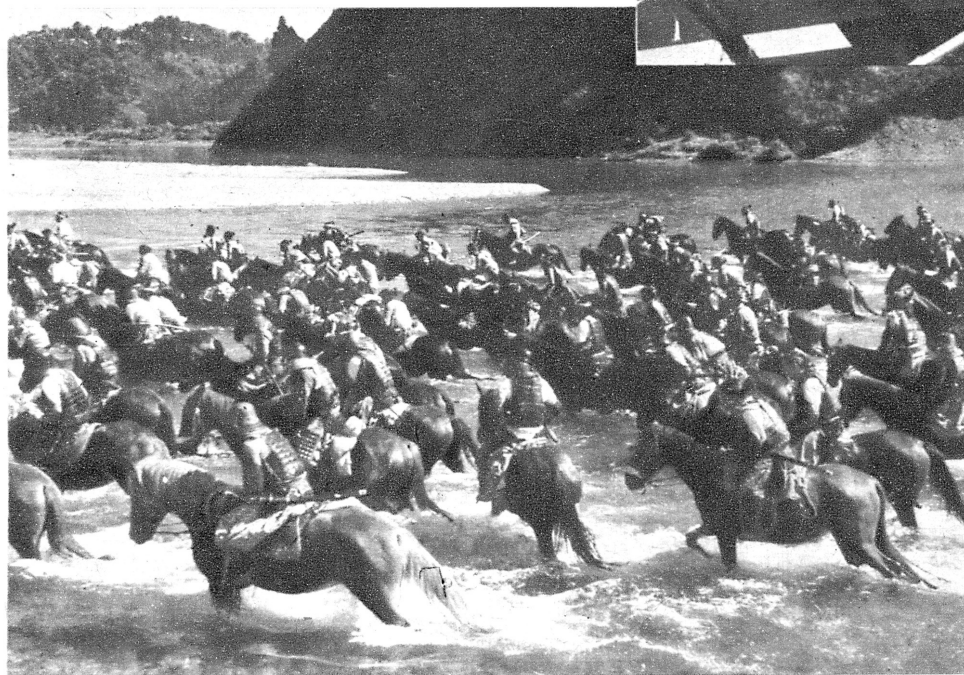
川中島

撮影餘談

三浦光雄

川中島を渡る上杉軍
(左)之を長橋上
(撮影いろいろの
買参)から移動
で追ふ撮影隊。

しての軍國大繪巻物の壯麗な畫面を如何に描寫するかは、演出者衣笠氏の構想の苦心は基より撮影擔當の私も共に今度の仕事程撮影計畫を立てる上に、渺らぬ苦悶を續けた事が無い。即ち全巻隨所に夜、明け方、早朝、の雲圍氣を基調とする場面が多い事、然るに山林或は密林中での同等効果を狙つた畫面が可成り重要に扱はれて居る事が撮影技術の露出度決定に至難な個所であり、具體的に言



つて感光仕難い暗緑色の背景と殊に森林中の僅かに樹の間を通して来る光線の角度選擇の不自由さ、被寫體の縦横が黒い衣裳である點等を考慮に入れての條件は、スタヂオでの電球照明に依る低調子のシェアウト以上に、暗さの段階の結果付けるのに相當困難なのである。

野外に於ける廣大な畫面の夜間効果は、例外なく濃赤色フィルタにたよるが、是れも自然光線の一定の方向を選ぶ事と快晴の然る青空の結び付きが絶対に要求されこの二つの條件が揃つて始めて目的を達成する譯だが、今度の場合は完璧の條件を望むには餘りにカット量の多量な點で、終始満足な光線状態で撮



特殊技術

圓谷 英二

特殊技術は、普通の撮影手段では、一寸表現の困難なものや、映畫を仕上げる過程の内、複雑な技巧の要る部分の處理等を掌握してゐる。

これが使用の目的や、其の効果は、讀者も大體想像出来る事であらうと思ふが、更に概説すれば次の様である。

(I) 畫面の接續

フエード・イン（次第に畫面が、現れる）

フエード・アウト（次第に畫面が、消える）

オーヴァ・ラップ（前の畫面が、消えぬ内に次の畫面が重なり合つて現れる）

ワイプ（前の畫面が、一方又は中央部等から消えてゆくのと同時に次の畫面が、續いて現はれてゆく）

これ等のものは、一場面から次の場面に移る際の一應の結末や時間経過、或は省略等の目的に使用

されるものである。

(II) 畫面の構圖或はエフェクトの修正

撮影された畫面が編輯の結果前後のカットの關連上不適當な構圖であつた場合にトリミングして修正し適當な構圖とする。

又畫面の調子が以上の様な場合にもこれを修正する

(III) 撮影不可能なるものゝ表現

暴風雨とか大火災とか、或は海瀟等の様な通常撮影の不可能な場面を作る（「ハリケーン」「スエズ」等の映畫のこれ等の技術による場面を想起されたし）

(IV) 資材並に經費の節約

老大なセット、或は豪華華麗なセット等には資材並に經費が相當に必要であるから、出来る限り經濟的に、それと同

等な効果を擧げる。ロケーションにも又同様の効果がある

以上が大體の使用目的と効果であつて、これ等の何れかの理由によつて特殊技術は使用されてゐる

特殊技術には技術監督（又は技術統率者）があり、使用する目的と表現の効果とを考慮して技術處理のアイデアを一畫面毎に立て、ひとつの課題に對してどの様な技術處理を行なふかを決定し、數回のテストを行つた後に作業する。

作業の分擔は

特殊撮影

合成撮影

特殊現象

描畫

造型

で、通常これ等の全部が技術監督の指示に従つて、各自の技術を協力させ、ひとつの畫面效果に結進するのである。

以下中樞技術の種類を紹介し概

高速度撮影

特殊效果に最も多く用ひられる撮影技術である。運動をスロー・モーションに見せる撮影法で、普通一秒二十四齣の撮影速度を二倍以上、十倍位にして撮るのである。暴風雨、爆發、地震等、模型を使つて本物らしく見せる場合に使用される技術である。

微速度撮影

高速度撮影の反對に、運動を非常に速く見せる場合に使用する。通常齣撮りなども謂れ、トリックの際には、自動車や汽車などの速力を現實よりも非常に早く見せ様とするとき等に使用する。

逆廻轉撮影

人間が後ろ向きに疾走したりする喜劇的なものに使用する例が甚だ多い。カメラの廻轉を逆にして撮影する技術である。

以上の撮影法は特殊效果の基礎になる技術で、この方法によつたフィルムを一畫面の一部として、次に述べる合成技術によつて他の演技、或は其の他のものと合成されて效果を擧げることになるのである。

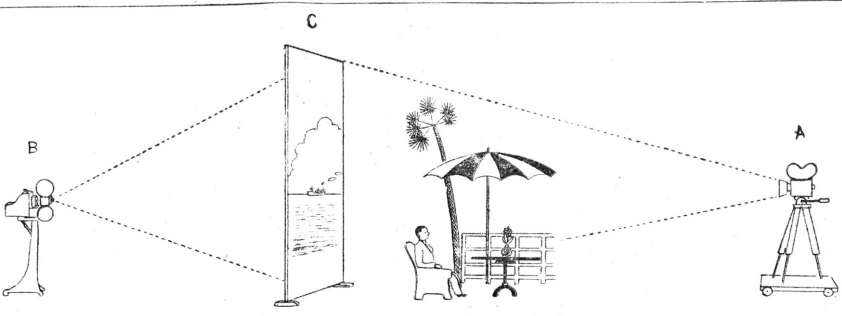
合成技術には、色々の種類がある。紙面の都合上、其の全部を紹介することは困難であるから、主

なるものに就いて記述して置く。

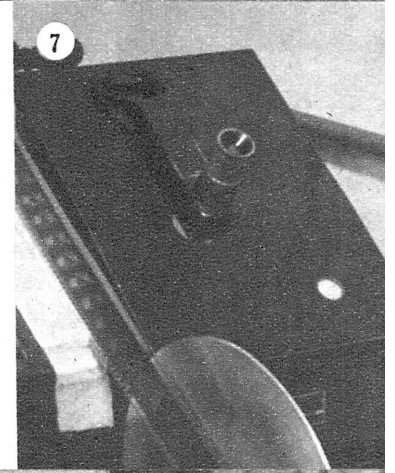
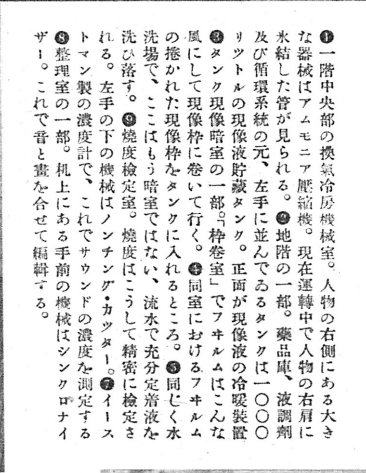
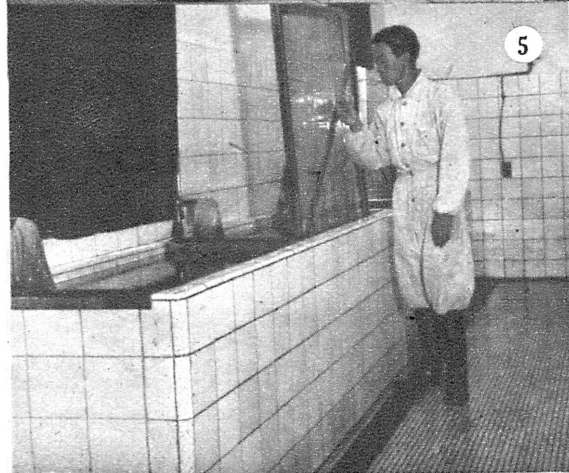
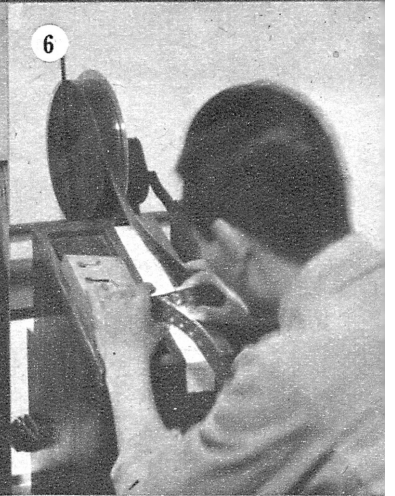
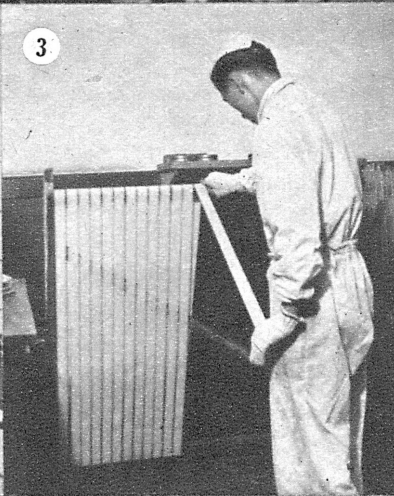
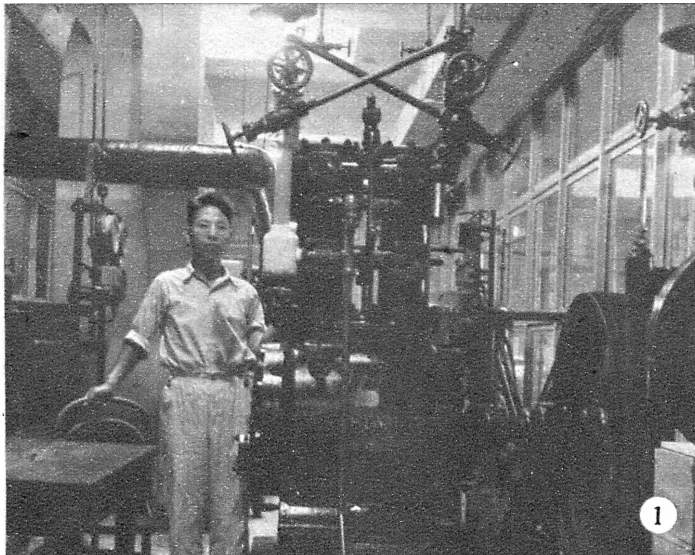
スクリーン・イメーヂ・プロセス

これは最も多く使用される合成法である。第一圖はこのプロセスの撮影方法を示したものの。圖中Aは撮影カメラ、

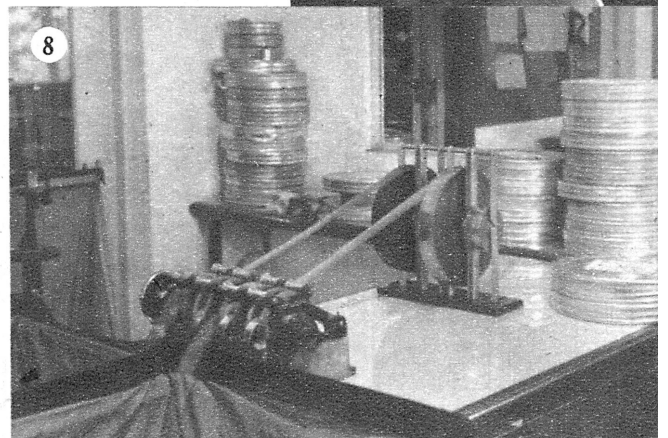
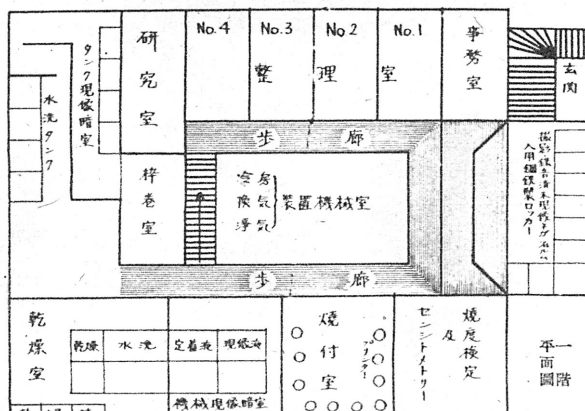
第一圖



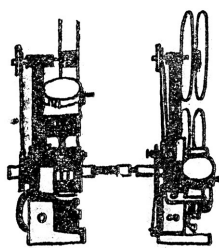
現像焼附



①一階中央部の換気冷房機械室。人物の右側にある大きな器械はアムモニア壓縮機。現在運轉中で人物の右肩に水結した管が見られる。②地階の一部。薬品庫、液調剤及び循環系統の元、左手に並んであるタンクは一〇〇〇リットルの現像液貯蔵タンク。正面が現像液の冷暖装置③タンク現像暗室の一部。特製室でフィルムはこんな風にして現像槽に巻いて行く。④同室におけるフィルムを捲かれた現像槽をタンクに入れるところ。⑤同じく水洗場で、こぼれ暗室ではない、流水で充分定着液を洗ひ落す。⑥温度検定室。温度はこうして精密に検定される。左手の下機械はノンチング・カッター。⑦イーストマン製の濃度計で、これでサウンドの濃度を測定する⑧整理室の一部。机上にある手前の機械はシンクロナイザー。これで音と畫を合せて編輯する。



映畫の編輯



一種のラオイヅム

濱村義康

吉村公三郎

1 編輯とは何か

一般に映畫を「編輯」と言へば、次の二通りの場合が考へられる。

即ちその一つは、所謂モンタージュと謂はれてゐる畫面構成を指す。これは監督者によつて豫め構成されたのではないフィルムを、編輯者が自分の技術と才能で接ぐ場合である。こゝで説明する編輯は狭義に考へられる場合の、監督が豫め構成した撮影臺本に従つて一本の劇映畫としてフィルムを接續する編輯技士の仕事を指す。

こゝ言ふと、映畫が出来上がるまでに於ける編輯者の分擔といふものが、單に、監督の細緻な演出のもとに撮られたフィルムを漫然と接いでおけば良い様に考へられるが、實はそんな簡單なものではな

い。——例へば、

いま、二臺の撮影機で競馬を撮るとする。撮影機はそれぞれスタンドの上とトラックの真中に置かれ、同一競技の全景と近寫を撮りわけられたものとする。勿論出来上つた二種類のフィルムには角度をちがへて撮つた同一競技が寫つてゐる。この二種類のフィルムを何の不自然さをもたせずに交互に接ぎ合せるのが編輯者の腕前である。これを編輯に末然な素人が行ふと、往々にして、突然走つてゐる馬が逆に疾走したやうな感を觀衆に與へる様なことになる。何故かと言へば、スタンドの上から撮られた全景に於ては、始め右から左に向つて走つてゐる馬が、スタンド下まで來ると左から右へ向つて走つてゐる。ところが、スタンドの下での撮影機では恒に右から左

へと走る馬しか撮れない。監督は臺本の上に於て、こゝから遠景、こゝは大寫といふ指定をする丈で撮られたフィルムの何處からどこまで使ふかといふことは言はない。そこに編輯者の必要が起つてくるわけである。

はるか向ふから汽車の爆進してくる場面があるとす。撮影されたフィルムには、小さく遠景にある汽車が疾走してきて撮影機の前一米になるまでが收められてゐる。この間大分の時間が経過してゐる譯だ。ところが畫面で實際必要なのは、汽車が見よく、美しい位置にある一定の長さの處だけである。これを監督は撮る丈であつて嚴密に撮影機前、何米から何米までと指定はできない。こゝに編輯者の活躍舞臺が擡げられるのである。この汽車の場合何呎使ふか？ 長いと冗慢で退屈するし、短いと意味不明である。それが編輯者の手によつて適宜に處理される。

いま一つ例をあげよう。

彼女が「お早う」と言ひ、彼が「やあ、お早う」と答へる場面。まづ撮影機は彼女の大寫でもつて「お早う」と言ふ準備動作から言ひ終つてしまふまでをとらへる。ところが、この撮影されたフィルムの中には映畫には必要でない動作がはいつてゐる。ところが彼女が口を閉ぢて何秒後は要らない、といふやうなことは監督の指

定できないところだ。次の、彼が言ふ「やあ、お早う」との間の臺詞の受け答へる間が長すぎると非常に間のびのびした場面となるし、また、間髪をいれず二つの臺詞が連續してしまつては慌ただしい滑稽な場面になつてしまふ。こゝいふ「間」を適宜に按配してゆく、そこに編輯者の存在理由があるのだ。

以上述べた例のやうな場合の編輯、こゝで説明するのはこの様な「編輯」についてである。これらのことはただ一見したところではなんでもないやうに見えるが、その技術をマスターすることはなみ大抵のものではない。編輯も重要な映畫製作上の部門であるといふことを識つていただきたい。

2 編輯に用ひる機械

スタート・マーク——これは撮影の時使用されてゐるが、その目的は全然編輯のため以外の何者でもない。世に「カチンコ」と呼ばれてゐる、これはシーン・ナンバーをふらさげた黒白のだんだら縞の拍子木である。撮影開始直後にこいつを撮影機の前でカチンと叩いて音と畫を合はせる道具である。つまりフィルム上に叩かれた畫像が撮つた時、カチンと録音されてこゝが始めと一目瞭然である

シンクロナイザ——つねに一分間九〇呎（一四四〇呎）の同期回轉をさせるモーターで、撮影、録音した二つのフィルムの、スタ

ート・マークを重ね合せる器具である。これが狂ふと畫面と音がずれることになる。

スクリプト・シート——撮影された各カット（一定の撮影位置から撮影機を止めずに撮つたものの單位をカットと謂ふ）毎に「場面ナンバー」「撮影ナンバー」（NGが出て撮りなほしがあつたりする）「演技の細目」「そのフィルムに寫つてゐる人間の臺詞」「場面外（寫つてゐない）がらの臺詞及び音響効果」「撮影された正確な尺數」を記入した表で、撮影されたフィルムについて來る。時には略圖の入ることもある。（挿圖参照）

フィルム・カッター——フィルムを切斷する器具である。便宜上鉄を用ひることもある。切斷されたフィルムを接合する藥品で、醋酸アミルとアセトンで出来てゐる。

ムヴィオラ——畫と音を合せてかける編輯器具で、謂はばスクリーンの要らない小さな映寫機の機能をもつてゐるものと思へばよい。

カッティング・テーブル——編輯機である。この上に仕事に必要ないろいろな道具が置かれてゐる。

整理棚——整理済みのフィルムをカット毎に音と畫のフィルムを一括して、カット順に整理するやうになつてゐる。

映画フィルムはどうして出来る

長 野 守 宏

今カメラにフィルムを装填して撮影をする。此のネガから焼付を行つて一つの寫眞畫を作つたとする。そして此の畫の藝術性や意圖せる効果の良否に就いて批判し、又作畫技術を論ずるに當り顧みて此の畫の良否を決定する一因子に就いて再考して見よう。

其れは二つに分類することが出来る。先づ第一にフィルムの性能である。第二に處理技術である。換言すれば幾ら優秀な技術者であらうともフィルムの性能が劣悪なものであるならば、幾ら努力しても出来る畫の美しさには限度があるし、又非常に優秀なフィルムが提供されたとしてもその處理技術が未熟で其のフィルムの持つ性能を一〇〇%に發揮し得なければ、之又満足な結果が得られない。一つの優秀な畫が出来るためには優秀なるフィルムと優秀な作畫技術とを要し、フィルム製造者と使用者とはフィルムを通じ密接なる連絡がなければならぬと確く信するのである。フィルム製造者はその製造に當り、使用者の體驗に基く貴い意見を聴取し尊重し、使用者は製造者のフィルムに對し正しき性能を理解し、それに最も適した處理をしなければならぬ。此處に寫眞技術の特長がある。斯くして出来たフィルムは使用に當つて更に一つの間

題がある。それは使用者が製造者の指示を理解しフィルムに對する處理條件を決定する際、無意識に當然の假定をお互に約束してゐるとである。即ち暗室で現像して見なければそのフィルム性能に對する指示の批判が出来ない爲に製造者も使用者も相互に製品に對する信頼の取引を先づ以て行つてゐることである。之が第二の特長であり製造家としては此點に最大の重點を置き均質にして而かも優秀なる製品を提供しなければならぬ所以である。斯くの如き條件の下に製造する寫眞感光材料の中でも映画フィルム製造は最も至難な技術と要し、それには先づ完全なる設備がなければならぬ。

一、寫眞工業に使用する空氣と水に就いて

(一) 空氣調和
寫眞工業の中でも特にフィルム製造に於てはフィルム生地、製造より商品として出荷に到る迄全作業に對し、空氣は清淨にして且一定の濕湿度を保たねばならぬが、自然の儘の空氣では勿論不可であるため、龍大なる空氣調和裝置を設置して塵埃を完全に除くと共に、濕湿度を調節し、之を作業に應じて一定に保ち、製品の均質性を保持

せしめ、又製造能力を一〇〇%に發揮せしめねばならぬ。且暗室内の作業に對する保健衛生的見地よりも、フィルム製造に於て空氣調和は絶対缺く可からざるものである。

(二) 水

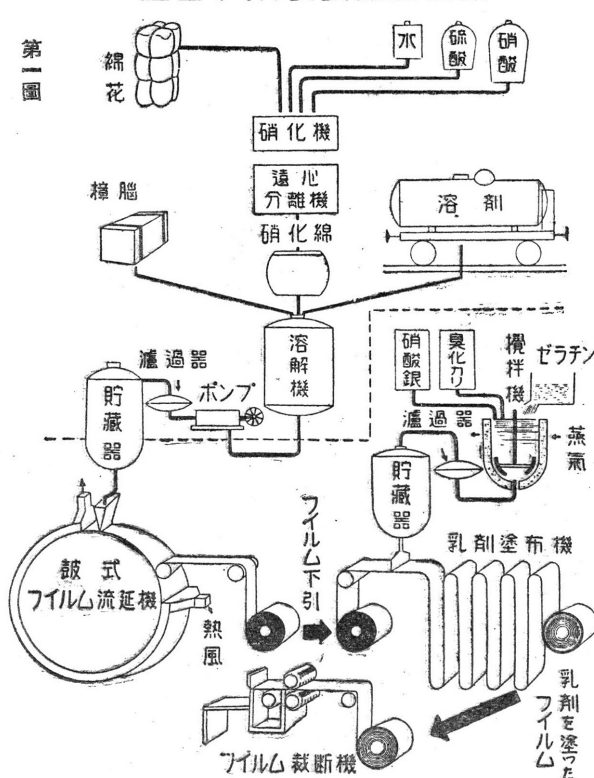
フィルムの製造に當つて水の選擇は最も重大なる問題である。即ち清淨にして一定

濕湿度の空氣調和並に乳劑製造上良質にして低溫且四季を通じて可成の水溫に變化なき水を極めて多量に必要とする。此のために富士フィルムの足柄工場は富士山麓より湧出する天然の貴い資源を十二分に活用すべく彼の地に設置されたのである。
斯くの如くにして工場が設置されたならばいよいよフィルム製造にとりかかるのであるが、映畫フィルムの製造は先づフィルム生地の製造からかゝらねばならない。扱て此處で富士フィルムの製造工程を參照して頂いて此の順に従つて話を進めて行かう。

二、フィルム生地の製造

フィルム生地は乳劑の支持體として、透明にして柔軟性に富み且現像定着處理中の

富士フィルム製造工程表



の問題ではなく、映寫幕の問題である。即ち、特殊な映寫幕の考案に要點が置かれるのである。

六、十六耗映寫機の問題

性能

以上述べて来たことは、すべて映寫劇場を中心にした標準型フィルムと其の映寫設備に關しての概念であつたが、フィルム資源のやましくなつてきた今日、經濟的な十六耗や十七耗半の映寫機の性能如何が興味ある問題として再吟味されて居るやうである。

十六耗映畫(十七耗半は十六耗と大體同様と考へてよいので以下單に十六耗の語を用ひる)について今更事新らしく云ふ必要もないが、どうかすると世間では可成り技術的に誤られ、夫れが爲に折角の利用範圍を傷け、甚だしきは三五耗にまで累を及ぼすやうなこともあるので、十六耗の性能について其の要點を述べて置くことにする。十六耗映畫の發達は最近非常に目覺しいが、映畫劇場用として利用される範圍は甚だ狭く、三五耗對十六耗の根本的差別を充分に認識する必要がある。何故に劇場用として十六耗が不適當であるかと云ふことは、要するに映寫効果の問題から論じられる。即ち次のやうなことが云へる。

(一) 等しい大きさの映寫幕とすれば、擴大率が約一対二(面積では四對一)となり、鮮銳度が相當

に異なる。

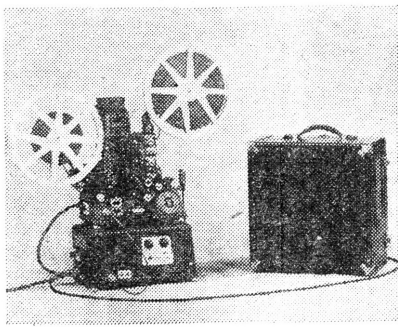
(二) 映寫畫面の動搖は十六耗の方が大である。

(三) 再生音質は十六耗の方が劣る。

勿論、以上は比較的問題で、實用上の價値に於ては(二)、(三)共に支障はない。然し、三五耗映畫の存在せる今日、しかも映寫効果が優つて居る以上、興行上の成功と云ふことは有り得ない。たゞ、山間僻地に於ける場合、或は無料上、映宣傳、教育を目的とする場合にのみ十六耗の價値があると云へやう。

又、他面に於て十六耗映畫の特徵は緩燃性フィルムを使つて居ることであつて、若しも可燃性フィルムを使用するとすれば、その價値は半減すると云つてもよい。

即ち、三五耗、十六耗は夫々利用すべき範圍を持ち、それらの區別は技術的に基礎づけられて居る。



第九圖

のである。

寫眞説明

- ① 映寫機、水銀整流器(交流を直流にする装置)
- ② トリキー増幅器の一種
- ③ トリキー増幅器の一種(全貌)
- ④ トリキー増幅器の一種
- ⑤ トリキー増幅器の一種

編輯後記

□映畫科學についてははもとより早く編輯をひらく筈であつたが、機會がなくて今日に及んだ。日本映畫臨戰體勢にあつて今日最も必要な事は、日本映畫將來の大きな發展の爲、映畫科學の徹底的の再檢討にある。そしてこの事をより廣く且つ早く實行する爲には、映畫公衆が常識としての映畫科學を知悉し之に依つて製作界へ刺戟を與へる事ではないかと考へる。こう云ふ意圖でこの號を急いで編輯したのであるが、急いだ爲、出来るだけハ平易にVと云ふ事が、ものに依つて相當難しくなつてゐる。之は諒とされたい。

□例號記事も同時にのせる豫定であつたが今月から紙數制限強化の爲、俳優・監督名鑑は一號休載。□又、ステイジの構造とセット(松山崇氏)、「映畫が出来るまで」(河崎喜久三氏)、「フアンタ・サウンド」(田村幸彦氏)、「天然色映畫はどうして出来る」(島崎清彦氏)は何れも次號になり、又、特殊字句の解説も次號にのせる。□次號は大體「演出の研究」に重

お化粧も臨戰型

厚化粧全廢。ニキビ、ソバカス、シミ、色黒を治して素肌美發揮。

★ダイナーは強力賦活酸素、應用効めの速いので大好評

約九五錢 一週七十錢

地 築・京 東
鋪 本 - ナ イ ダ

用 藥

ダイナー

點をおくつもりである。尚ほ十二月號から「新映畫」は毎月廿五日發賣となる。

各撮影所の技術部諸氏に徹底的の御援助を頂いた。

□前號は表紙を單調にすべく努めたが製版に失敗したので本號は再び着色した。新年號から統一する

新 映 畫 金 十 五 錢 (傳)
第十卷 第一號
昭和十六年十一月十日發行
昭和十六年十一月十日發行

本誌定價 普通號 金五十錢 (送料別)
半年 金三圓十錢 (送料共)
一年 金六圓十錢 (送料共)
編輯兼發行人 東京市世田谷區世田谷二丁目一四五六 飯 島 威 男
印刷者 東京市小石川區久堅町一〇八 大 橋 橋 松 雄
印刷所 東京市小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社
配給元 東京市神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社
發行所 東京市神田區有樂町二丁目三番地 映畫出版社
電話 九の内(三)六九四(編輯局)
振替 東京六九一二六番

昭和七年二月十四日第三號 海軍 (二月十一日發行)
昭和十六年十一月一日發行 (第一卷 第十一號)

海軍

年八十八
陽太の目

[illegible]

大丸大 佐北中 清小德 霧花若英 立井原 川杉川 伯川山日 村澤 平 方 秀 八 定 夢義莊 百合 春蘭 ぼ 子江子る 聲男司彰彪男郎夫傳

[illegible]

！く描を闘苦むぢにに血の士戦業工重防國！秋るすとんらま高波の洋平太